

# 人権だより

No.293(2022.7)

## 学びに踏み出す一歩

社会科 武智 裕之

いま ねんまえ ぜんにんこう はじ たんにん  
今から3年前、前任校で、初めて担任になったときの、あ  
こうこう ねんせい はなし わたし う も  
る高校2年生の話 をします。私 が受け持ったクラスは、  
ちいき かた み こ なが じんけん じゅぎょう  
地域の方などが見に来られる中で人権についての授業  
をすることになっていました。題材には、地域で部落差別  
かいしょう じんりょく はやしだてつお しょうがい と あ  
の解消のために尽力した林田哲雄さんの生涯を取り上  
げることしました。しかし、授業をどうやるか悩んでいた私  
は、クラスのみんなに相談してみました。



すると、一人の女子生徒が、「私 が、林田哲雄さんについて調べていいですか？」  
と言ってくれました。それにつられて、何人かの生徒が「私も」と手を挙げてくれまし  
た。最初に声を上げてくれた生徒を中心に調べることになりましたが、実は私はとて  
も不安でした。彼女は内気で、しかも体調面で不安を抱えた生徒でした。何とか本人  
は頑張ろうとしているけれども、勉強についていけないことが多く、自信を失う。そんな  
悪循環に陥ってしまっていたのです。だから私は、彼女が「調べてみたい」と全員の  
前で言ったことにとっても驚いたし、最後までやり遂げてくれるだろうか心配していま  
した。

しかし、彼女は本気でした。様々な本を読み、林田哲雄さんについて詳しい学芸員  
の方のお話を伺い、積極的に学びました。その中で彼女は「林田哲雄さんが部落  
差別に苦しむ方々だけでなく、農民や労働者の方々の不当な扱いにも立ち向かった  
こと」を学び、「この差別はダメだ」だけではなく、「どのような不平等な扱いもダメ  
だ」という意識をクラスで深めてほしいと思うようになりました。

彼女の思いと一緒に調べた生徒も共感し、授業の中で発表することになりました  
た。資料も、クラスに投げかける質問も、全て彼女たちが考えました。当日はたくさん  
の方が見に来られましたが、これまでは想像もできないような堂々とした態度で、

彼女の発表を成し遂げました。クラスのみんなが、差別を許さない気持ちを深めてくれたこともうれしかったです。それ以上に私は、発表した彼女たちが、自信をもって、自分の思いをみんなと共有しようとしてくれたことにとっても感動しました。その後、彼女は、文化祭でも中心的な役割を担いました。もちろん体調面の不安は抱えたままで、苦労もあったと思いますが、周りのサポートもあり、一生懸命勉強に取り組ましました。翌年には志望大学への進学を果たしました。林田哲雄さんに背中を押されて、彼女が大きく成長していくことを実感できた2年間でした。

皆さんも様々な場面で、差別に立ち向かった人々を学ぶ機会があると思います。人権を尊重する大切さを理解する、大事な機会です。そして同時に、積極的に学びに向かえば、自分自身が差別や偏見に立ち向かう勇気をもって、自信を深める機会になるかもしれません。自分の思いをみんなと共有し、一歩を踏み出すことができれば、それが本当の“学び”なのかもしれません。

## 【人権委員の声】

もっと差別や人権について深く考えてみようと思いました。私も自分の思いをみんなと共有して、学びを深めていきたいです。(1年 人権委員)

現在も差別というものがあるので、差別をなくすために、今の自分の生活を振り返り、人権について考えていきたいと思いました。(2年 人権委員)

この文章に書かれている女子生徒は、内気で人前に出ることが少なかったのに、人権の授業で勇気を出して一歩踏み出すことで、クラスの中心で活動できるようになることができて、すごいと思いました。私もこの女子生徒のようになりたいです。

(3年 人権委員)

人権について、自分から積極的に学ぶ姿勢が、問題を解決することにつながると思いました。授業などで人権を学ぶ機会、一回一回を大切にしたいです。(5年 人権委員)

今まで学校で人権についてたくさんの授業を受けてきましたが、この話を読んで、考えるだけでなく、自らできることを探して行動することが大切なのだと改めて思いました。人権のことに限らず、様々な場面でこれまでより少しでも積極的な気持ちをもって物事に取り組めるよう、心掛けていきたいです。(6年 人権委員)